

「岩見沢の航空写真(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

岩見沢市は、道央札幌市の北東に位置する。特に目立った観光資源もなく、旅行でわざわざ行くような土地でもない。私がこの土地に興味を持ったのは、鉄道城下町であること、かつて周辺に多くの炭鉱があったこと、そして知人が岩見沢出身で、戦後すぐのことをよく知っていたからである。



このあたりには「砂川---オタ・ウシ・ナイ=ウタシナイ (砂浜・についている・川)」「滝川---ソラチベツ=ソラチベツ (滝のある川)」など、「アイヌ語地名を和訳した地名」が散在する。岩見沢もアイヌ語地名の和訳に見えるが、実はちがう。開拓者の休息所「浴(ゆあみ)」にちなみ、「浴澤(ゆあみさわ)」という地名が生まれ、「岩見澤」に転じたものだ。アイヌ語音の充漢字地名や、アイヌ語の和訳地名ではなく、和名由来の都市名は、北海道では大変珍しい例である。



岩見沢は戦前から鉄道の要衝で「鉄道城下町」の一つだった。現在の地図を見ると、札幌方面からの「函館本線」と苫小牧方面からの「室蘭本線」が岩見沢で合流している。函館方面からの列車は、札幌を経由す

るよりも、室蘭本線経由のほうが距離的には近いのだが、この路線には直通列車も特急も走っていない。現在は非電化のローカル線に過ぎない。しかし、過去の室蘭本線は、岩見沢周辺の炭鉱で産出した大量の石炭を苫小牧や室蘭に運ぶ、貨物の大動脈であった。



写真は戦後 1948 年撮影の、岩見沢市の航空写真である(国土地理院提供、2 ページ目に拡大画像)。北海道のほかの都市と同じで、縦横に規則正しい道路で区割りされている。ただし、道は東-西・南-北にはなっておらず、およそ北西-南東・北東-南西に通っている。これは函館本線の線路がその方向に敷かれていたからで、それに平行に街が発達したのだろう。



線路を挟んで、市街地の反対側に流れているのは、「幾春別川(いくしゅんべつがわ)」である。幾春別川は石狩川の支流の一つで、大変な「蛇行ぶり」である。場所によっては線路ぎりぎりまで川が迫っていて、蛇行部はたびたび溢水し、洪水に見舞われたという。



690 N. W. 1/4 Sec 12, T29N, R14W, S12M, 28

1941